

ウェルカム参観日（11/19 土）

地域の防災を考える日



濁川中だより

令和4年
12月23日
第8号

十一月十九日（土）に、地域の防災を考える日（ウェルカム参観日）を行いました。保護者や地域の方々のご協力をいただきました。感謝申し上げます。当日は、朝の各家庭からの避難をスタートとし、中学校屋上への垂直避難を行いました。その後、起震車体験、避難所運営（HUG）ゲーム、避難所物資確認、避難映像視聴、濁川地域の川の歴史や現状の講話を経て、生徒と保護者や地域の方々との対話（ファシリテーション）を行いました。

生徒は、事前に、各家庭で、「自分たちが向かう避難所はどこか」「今現在、避難する時の持ち出し袋の準備はどうなっているのか」を話し合ってもらいました。その各家庭の現状と、避難の際に考えられる現実のズレに気づき、考えを深めている姿が見られました。

- 避難所に行けば、必要な物資はあると思っただが、そうではなかった。持ち出し袋の内容を見直す必要があるな。
- 避難所には、多様な人がくる。地域の中学生として何ができるかな。
- 川（排水路）の安全は絶対ではない。避難所は川の向こう側だ。早めの避難、呼びかけが必要だな。

防災に関することは、状況によって刻一刻と変化するなど、正解が一つでなかったり、とても複雑だったりします。だからこそ、中学生も含めた地域に住むすべての人で考え、共有していくことが大切だと思います。そのために、中学生が、非常時だけでなく、平時から、防災だけでなく、地域と関わり共に学ぶ機会が増えるといいなと思っています。



津波・水害を想定して屋上に避難した全校生徒

また、当日は、北区の防災士の方々から対話の場面で、直接アドバイスをいただきました。

皆様のおかげで、生徒の考えが、広がったり深まったりし、課題に対して多様な他者と協力して解決しようとしたのではないかを考えます。これからも、生徒が地域の一員として、普段から、地域や社会活動の活性化の貢献できるような教育活動の推進に努めていきます。

濁川中だより 〔カラー版〕

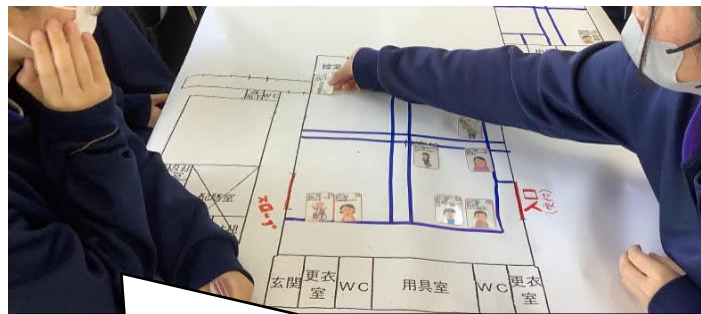
↓こちら↓



濁川中ホームページ
<http://www.nigorikawa.city-niigata.ed.jp>



テーマ「中学生として地域とつながり、より安全・安心な避難を目指すためにどうすればよいか」に地域の方と取り組む生徒



避難所運営（HUG）ゲームに取り組むグループ



濁川中にある避難所物質の数量を確認する生徒

北区地域福祉推進フォーラムで発表してきました

十一月二十六日

(土)に、地域の防災を考える日(ウエルカム参観日)について、北区地域福祉推進フォーラムで発表してきました。2年生四名が学校を代表して、取組を通して考えたこと、考えが変わったことなどを話してきました。

代表生徒たちは、「自分でできることは自分ですべきであること。その上で、自分たちのことだけでなく、まわりの避難者のことも考えて行動すること。また、普段から、地域の方々と知り合うことやふれ合うことが重要であること。」を自分のことばで堂々と語っていました。左に、生徒が当日発表したスライドの一部を紹介いたします。ご覧ください。



HUGゲームを通して感じたこと
避難所では避難者が**過ごしやすいよう**に工夫が凝らされている



そして、自分達のことだけではなく**周りの避難者のことも考えて行動することが大切!**



濁川中学校の**受け入れ可能人数**に対しての**備蓄されている避難物資の量が圧倒的に少なく**、1日も持たない

→つまり、備蓄品などに頼るのではなく、**一人一人が自分で用意できるものは避難時に持ってくる**ということが大切!!

そのためには...

自分の地域には**どんな人が暮らしているか**やどこに**高齢者が多く住んでいるか**などを**あらかじめ把握**する。

↓
定期的に地域の人と関わりを持つ機会や**災害について話し合える場**をつくる



生徒会主催 いじめ見逃しゼロ集会

十二月十六日(金)6限に、生徒会主催で「いじめ見逃しゼロ集会」が開催されました。

事前に、生徒会による「いじめ」「いじり」に関する意識アンケートを行ったり、各学級で道徳の時間にいじめについて考えたりしていました。

アンケートでは、「自分が嫌だと思いういじりを受けたことがある」という生徒が一定数存在しました。また、「いじり」に対する各生徒の認識には違いがあることが分かりました。そこで当日は、「誰にでも許せるいじりはあるのか」というテーマのもと、一・二・三年生

混合の縦割り班で、話し合い活動が行われました。まず、いじめに関する動画を視聴しました。その後、縦割り班で、動画内での問題点、今後予想される出来事、いじめにならないための改善策が話し合われました。三年生が進行役を務め、一、二年生から考えを引き出して

いる姿が見られました。模造紙へのまとめ方も立派です。

この活動の後、生徒会長が、全校生徒の意見を基に、次のようにまとめました。

○ いじられている人の気持ちを考えなくてはならない。

○ いじりがエスカレートしていじめになってしまう可能性がある。

○ いじりは、いじめにつながる行為である。

最後に、全国中学生人権作文コンクールの入賞作品「いじりはいじめ」の朗読を聞きました。

濁川中学校に関わるすべての人たちとともに、誰もが安心して、笑顔で生活のできる学校を目指していきます。

当日、参観された保護者や地域の方々、ありがとうございました。

